

**●漁況情報**

- 6月上旬、城ヶ島地先でテングサ（寒天の原料となる海藻の総称）の収穫が始まり、漁港では収穫したテングサを天日干しするこの季節ならではの風景が見られるようになりました。三和漁協城ヶ島支所所属の漁業者の話では、今年は比較的収穫量が多いとのこと、不漁の魚介類が多い中でまとまった収入になることが期待されます。



収穫されたテングサ



テングサの天日干し

- 6月上旬、長井町漁協と横須賀市大楠漁協の大型定置網にサワラ（1～2kg 主体）が10t前後、多い日には15t入網しました。新型コロナウイルス等の影響で魚価は前年より3割程度安かったものの、昨年と同じ時期にサワラが大漁だったので、今後もまとまった漁に期待したいところです。



昨年も6月に好漁だったサワラ

**●浜の話題**

- 6月8日、葉山町漁協は磯焼け対策の一環として地先漁場のウニ除去を実施しました。当日は1500個のウニを除去し、その種組成はガンガゼとムラサキウニが2：8程度でした。場所によってはアラメやカジメが群生している様子も観察されたそうです。
- 6月10日、横須賀市東部漁協横須賀支所においてマガキ養殖に取り組む漁業者、横須賀市職員および当センター普及指導員が集まってマガキ養殖の勉強会が開催されました。横須賀市東部漁協では以前からマガキ養殖に取り組んでいましたが、勉強会では他県の事例や新しい養殖方法について情報交換が行われ、地元にあった養殖方法について議論しました。

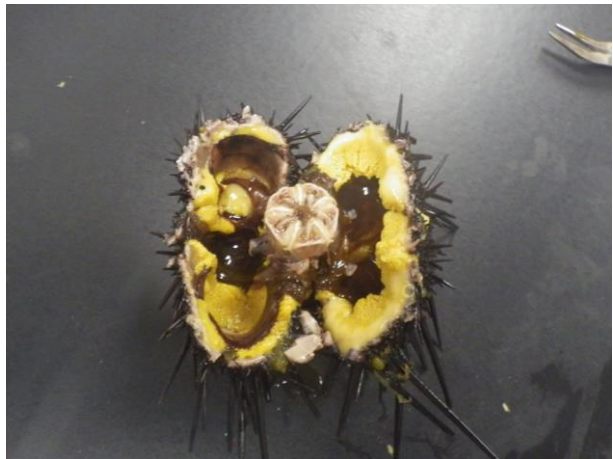


マガキ養殖の勉強会の様子

- 6月上旬、長井町漁協で臨時総会が開催され、新たに小澤紳一郎（亀辰丸）さんが組合長に選任されました。小澤さんは素もぐり漁や一本釣漁が専門で、これまでも漁協の潜水部会長やアオリイカ部会長を歴任されています。他の9名の役員も改選され、40代の若手漁業者主体となりました。
- 小田原市漁協青年部が実施中のキャベツ等の野菜残渣を餌としたムラサキウニ養殖は、開始から2か月半経ち、順調に成育が進んでいます。ウニの身入も良くなり、今後7月2日に試食会を開催して、7月9日に出荷する予定です。



養殖カゴの中のムラサキウニ



養殖したウニの卵巣

## ●お知らせ

- 6月24日、当センター栽培推進部は2020年漁期の沿岸サバ予報（速報）を発表しました。今漁期のマサバ漁獲量は前年を上回るものの平年を下回り、魚体は尾叉長31～33cm（体重340～440g）が主体になると予測しています。今回の予報は速報であり、8月には予測精度を高めた確定報を発行する予定です。詳細は当センターHPをご覧ください。

さば予報 URL : <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/mx7/cnt/f430693/p1167228.html>